

生涯学習係

学校支援センターの機能を充実させるために

利根教育事務所では、学校支援センターの機能を充実させるポイントとして、

①教育効果を高める活動づくり

②持続可能なしくみづくり を挙げています。

「地域と学校のパートナーシップ推進フォーラム」での事例発表から参考になる実践を紹介します。



教育効果を高める活動づくり

学校と地域が連携するとこんなにすばらしい取組ができるんですね！

沼田南中学校の例

中学生が校外へ出て活動する取組です



私たちは、中の会商店会の御協力で震災復興支援「気仙沼の物産販売」に取り組みました。



商店会のみなさんから、柳波まつりで「気仙沼の物産販売」を任せられました。仕入れ計画、販売価格の設定、販売ブースのレイアウト、会計処理までさせてもらい、募金活動も行いました。そして、販売収益と募金は、桜の苗木として気仙沼へ贈ることができました。



柳波まつりに来られたお客様や募金に協力して下さった方々へ御礼として渡す「りんご鉛筆」を全校生徒で製作しました。



柳波まつり：物産販売の様子

【復興支援活動から生徒の成長が見られました！】

3年生は、職場体験学習で学んだ、働くことの意義や価値を更に深めることができました。

商店会や商工会議所、気仙沼の多くの人たちとコミュニケーションを取りながら、完売するためのアイデアを出したり、工夫をしたりしました。



復興支援活動という明確な目的をもつことで、震災直後の義援金募金に比べ、高い意識をもち、主体的に取り組むことができました。



持続可能なしくみづくり

地域コーディネーターが見つからない場合は、こんな方法があるんですね！

月夜野北小学校の例



教育活動サポーターさんが学校支援センターの地域コーディネーター的な役割を果たしています！

ある日、〇〇先生から子ども教室の教育活動サポーターさんに相談がありました。



〇〇の活動がありますので、御協力いただける方を見つけてもらえませんか？



はい！分かりました。心当たりがありますので連絡してみます。

【学校はとても助かっています！】

教育活動サポーターさんが、学校のニーズに合う人を見つけてくれます。

先生方が異動しても教育活動サポーターさんが学校支援センターに継続してかわってくださるので、年々、地域の教育力を取り入れた活動を充実することができています。



教育活動サポーターさんが地域と学校をよく知っているので、学校の求める支援ボランティアが増え、支援ボランティア同士の横のつながりが広がっています。

